国公女性協NewS

２０１３．７．８
NO.２５７

国公労連女性協議会
TEL　03-3502-6363
Emil:mail@kokko.or.jp

第43回国公女性交流集会開催

ひろげよう　連帯と共同の輪
ー伝えよう　東北のいま　つながろう　希望ある未来へー

実行委員会が作成したタペストリー

５月25日～26日、宮城県松島で第43回国公女性交流集会を開催しました。集会には２日間で250人を超える参加者が集まりました。

全体会は国公労連女性協梅澤常任委員と、東北ブロック実行委員会三浦副実行委員長の司会で幕をあけました。国公労連女性協濱野副議長の主催者あいさつに始まり、国公労連宮垣中央執行委員長、東北ブロック国公松木議長からあいさつをいただきました。山田実行委員長から東北ブロックを代表して、「大震災から２年が過ぎた。震災直後に石川で行われた国公女性交流集会では、暖かい励ましと支援のうちわをもらい、大変ありがたかった。現在、内陸部では震災前と変わらない日常が戻っているが、沿岸部や福島では継続的な支援が必要となっている。今回の集会を機に、改めて被災地の現在を知っていただきたい」という話がありました。

山田実行委員長

記念講演「ふくしまから伝えたいこと」

記念講演は、福島県立高教組女性部長の大貫昭子さんより、「ふくしまから伝えたいこと」と題しての講演でした。マスコミ報道では伝えられない東京電力福島第一原発事故後の福島の状況と、子どもたちや被災者の思いなどを語っていただきました。

記念講演の大貫さん

「原発事故直後、住民の安全や避難は後回しにされ、正確な情報や明確な指示もないまま避難し、放射能が流れる方向に避難した人もいた。避難者は『数日で帰って来られる』と思い、体一つで避難したものの、そのまま自宅に帰れなくなってしまった。原発事故によって津波被害者の捜索もうちきらざるをえなくなってしまった」などと、実際に福島に住んでいるからこそわかる実態が語られました。

また、「原発30km圏内の高校は他校や公共施設などを間借りしてサテライト校を設置し、それまでの勤務校通りサテライト校に配置されたため、避難先から長距離通勤をしたり、単身赴任をしたりして負担が大きい」また、「子どもたちは他校への間借りやプレハブ校舎などのため、落ち着いた環境の中で授業ができず、理科の実習などは制限された。学校行事、部活動もほとんどできなかった」などと教育を受ける権利が保障されているとはいえない状態にあることや、家庭状況も大きく変わってしまったこと、それらに伴って子どもたちの心の問題も大きくなっていることなどが語られました。また、放射能への対策も遅れ、不安が大きいことなどについての話がありました。

一方、住民の思いと逆行するように、原発再稼働に向けて除染が宣伝され、「安全・安心」を強調し、原発の情報はマスコミから消えたこと。反原発の運動は報道されず、17万人が集まった集会さえもとりあげなかったことなどが怒りをもって語られました。

そして最後は、「子どもたちに二度とこんな恐ろしい体験をさせてはならない、安心できるふるさとと家庭を取り戻さなければならない。たたかうためには全国のみなさんの力が必要。福島の現状を知り、周りの人にも知らせてもらいたい」という言葉で締めくくられました。

＜ 参加者の感想＞

「こんな事故を起こす原発はゼロにすべき！とあらためて思いました」

「テレビや新聞で報道されない実際の福島の現状を知ることができました。いつまでも忘れず、心にとどめます」

「公務員という立場から自分に何ができるのか、改めて考えさせられました」

基調報告
ーしなやかに　したたかに　あきらめず行動をー

国公労連橋本女性協議長は、「被災地を風化させないために何ができるのかを考え松島で集会を開催した。この２日間学んだことを今の状況を周りに伝えていくことが重要」と今集会の意義について触れた上で、私たちをめぐる情勢について話しました。憲法が改悪されようとしている中、これを許さず憲法を暮らしにいかすとりくみを広げることや、労働分野の規制緩和を許さないとりくみが重要だとなこと、「公務員賃下げ違憲訴訟」勝利に向けたとりくみや、社保庁職員の分限免職取消についての話なども報告しました。

最後に、「公務員バッシングも衰えを見せず、誇りを失うほどの労働条件の一方的な切り下げが進行している。仕事と家庭の両立をどのようにするのか、そのためには何が必要かなど、シングルの人も既婚者もお互いの立場に立って考えていきましょう。そしてしなやかにしたたかにあきらめずに行動しましょう」としめくくりました。

職場・地域から
医療職場（新生園）・仙台空港・岩手の被災地

全医労新生園支部の小野寺かつ江さんから、医療職場（新生園）についての報告がありました。ハンセン病患者の強制隔離政策と、未だに差別と偏見が続いている現状が語られたあと、新生園などハンセン病療養所について話がありました。「入所者は平均82、83歳、療養所の中は小さな町と同じ。ハンセン病はほぼ治癒しているが、多数は後遺症により障がいがあったり、高齢化で何らかの身体疾患がある。療養所には十分な医者がおらず、一般病院への入院は拒否される。国に支援を要求しても難しい」「震災時は震度７を記録したところから新生園は２km しか離れていなかった。大きな被害はなかったが、５日間停電し、食料もなく、職員は家にも帰れずに勤務をした。支援物資もこなかった」と実態が報告されました。

つづいて、国土交通労組の木方慎太郎さんから、仙台空港についての報告がありました。「大震災によって、空港は津波被害にあった。除雪車をつかってガレキ処理をし、小規模支援物資の輸送が可能になった。国交省では空港の復旧だけではなく、道路や港の復旧も行われ、TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）が活躍した。仙台空港は１ヶ月で国内便就航、10月には普段どおりの就航となった。東北の玄関口として大きな役割を果たす空港なので、ぜひ仙台空港を使って、復興の一助にしてほしい」という話がありました。

最後に、岩手県国公議長の古澤さんから、岩手の被災地での公務労働者についての報告がありました。「私も公務員賃下げ違憲訴訟の原告」と名乗った上で、「全国から岩手への支援に感謝する。復興業務に多くの人手を必要としているが、岩手は公務員宿舎もなく、被災者が入るアパートだけで精一杯で、家賃は高騰している。長距離通勤をしている職員も少なくない。復興予算を使って壊れた庁舎を直そうと思っても、土木関係の人手は足りず、物資も少ないので、落札者がいない」「今回の交流集会では、岩手に来るフィールドワークはないが、ぜひ岩手に足をのばしてほしい。被災地の復興の助けにもなる。特に陸前高田はまだ復興には遠い。完全に元通りになるにはまだまだ時間がかかる。被災地をもとの状態に戻すという信念のために頑張るので、支援をお願いしたい」という話がありました。

会場でも物販にとりくみました。みなさんのご協力ありがとうございました！

☆夕食交流会☆

夕食交流会では、宮城の美味しい食事をとりながら、仙台「すずめ踊り」を堪能しました。最後は希望者は壇上にあがり、一緒にすずめ踊りを楽しみました。

各単組紹介では、単組や職場の紹介にとどまらず、歌やマジックなどが披露され、それぞれにアピールをしていました。

すずめ踊りをみんなで楽しく踊りました☆

常任委員会から

第43回国公女性交流集会にご参加いただいた皆さん、お疲れ様でした。また、送り出していただいた職場の皆さん、ご家族の皆さんに心より敬意を表します。さらに、職場の多忙な状況のなか、現地実行委員の皆様には「東北のいま」を伝えるため、計画・準備・運営にご奮闘いただき、心より感謝申し上げます。本当に素晴らしい集会になりました。５月25日は私の誕生日でした。この集会に誕生日を迎えることができて本当に良かったと思います。

副議長・濱野　五月